

下関市立大学広報

1998年6月1日 第25号

発行

下関市立大学広報委員会

山口県下関市大学町2-1-1

TEL 0832 (52) 0288

FAX 0832 (52) 8099

http://www.shimonoseki-cu.ac.jp/

学長就任にあたって

下山房雄



大屋前学長が92年6月の『下関市立大学広報』に書かれた「学長就任にあたって」は、「運命の女神」のやさしさといわずら・気まぐれから叙述を始められている。私も似た気持ちだ。

1年前の今頃、自分が下関市大の学長の仕事に就くなどということは全く考えてもいなかった。10年の九大経済学部教員の仕事を昨春に定年で終えて以降、知力・体力ともに不自由の度を増している私の両親の介護問題を考慮して東京近辺以外での再就職は考えていなかったのである。幸か不幸か再就職の口がないまま自由な失業生活を享受していた所に、学長職に迎えたいとの申し出を受けた。

研究者40年、教員30年の履歴を踏まえ、21世紀の日本を支えるべき青年の教育に貢献するというやり甲斐のある仕事と受け止めはしたものの、この年で激しいサバイバル競争を迫られている大学運営の仕事へ挑戦することには不安懸念も大きかった。しかしNHK教育テレビでの「弁護士・中坊公平」で「人生の夕暮れ時に、日没前の太陽が一段と大きく輝くことを思って仕事を引き受けた」との言葉を聞いたり、弁護士で政治家の正森成二氏が衆院永年在職表彰謝辞に引いた中国の古詩「驢ハ老イテ檻ニ伏ストモ志千里ニ在リ 烈士暮年ナルモ 壯心己マズ」に励まされ、お引受けした次第である。

大屋前学長の時代は、バブル崩壊後のたいへん困難な経済環境であった。その中で複数学部の悲願達成はできなかったが、学友会館建設の途はつけられた。本格工事は来年度であるが、大学らしい文化の香りが形になるような会館が出来ることを期したい。

しかし言うまでもなく、建物は入れ物であって、そこに集う青年たちの活気ある学生生活の実現こそ、私たち教職

員の仕事の理念である。一般教育を通じて自然と社会つまり客観世界万物の歴史と構造の概要を認識し、専門教育を通じて経済という部分世界の因果把握を今日の学界の認識レベルにまで到達する、こういう知力発達に成功した学生を一人でも多く社会に送り出すことがわが下関市大の果たすべき責務である。

前掲の大屋前学長の「学長就任にあたって」は「この大学が下関市民の宝と言われるよう、学生と共に夢を追いたい」との叙述で結ばれている。私はこの「宝」を上記の責務遂行によって造り上げたい。そのプロセスは、臨時定員の恒常定員化、企業の修士卒採用の趨勢や社会人のフレッシュアップの要求を捉えた大学院の創設、さらには複数学部化による文字通りのユニヴァーシティ実現のホップ・ステップ・ジャンプでもある。その「夢」を成就させ、この大学の存在によって全国、全アジアいや世界の各地から有為の青年が下関に集うという特徴を一層強めたいと私は考えている。

新体制スタート

新学長とともに、新役職が就任した。任期は2年。

学 生 部 長 財 部 忠 夫 教授

教 務 部 長 斉 藤 節 夫 教授

図 書 館 長 堀 内 隆 治 教授

産業文化研究所長 坂 本 紘 二 教授

悲願の学友会館(仮称)実現

1991年、B講義棟新築時に取り壊しとなり、その後プレハブに分散されたままになっていた学友会館が、ようやく建設されることに決まった。今年度に設計と基礎工事をやり、来年度中には完成の予定。【第10面に関連予算】

新学友会館は、4階建てで、現在の武道場敷地に、武道場も含めて建設される。25のクラブ室のほか、学生団体の4本部を収容し、エレベーターも設置される。設計にあたっては、手狭な敷地の効率的活用のほか、厚生会館との連絡も考慮される見込みである。

平成10年度入学式

平成10年4月8日、経済学科246名、国際商学科266名、合計512名の新生を迎えて、第37回入学式が挙行された。新生総代は中村志保さん。山下新学長は式辞で、しっかり勉強して広い教養とシャープな専門の知力をつけることの大切さを述べ、「21世紀の日本は、あなたたちがどういう労働と生活の文化を身につけて社会生活を送るかに拠っている。大学生活はそのための助走の期間です」と新生を激励した。

退任にあたって

大 屋 祐 雪

6年前に発刊された本誌第9号所載の「学長就任にあたって」のなかで、私はそのころの心情を次のように記している。「運命の女神はやさしさのどこかに『いたずら性』と『気まぐれ性』を秘めておられるらしい。気ままな第二の人生を過していた私に、再び浮き世の風をまともに受けるポストを準備された。井上靖の『孔子』を読んだ直後でなかったら、おそらくこのことを「天命」とは思わなかったろう」。

それから6年、設置者や市議会、本学の教職員、父兄後援会、同窓会、校友会、それに市民の方々の支援と励ましによって、学長の任を私なりに全うすることができたことを、いま思うといささか感無量である。1992年からの私の在任期間は、日本経済のバブル崩壊から今日に到る時期であり、それに政治の混迷も加わって、曙光が見出せない社会状況であった。先が見えないと言われていた当時であっても、大学にとって、はっきりしていたことは、18才学齢人口の傾向的減少による「大学氷河期」の到来と科学技術の目覚ましい発展を受けての産業界の変容に、大学は国・公・私立を問わず研究と教育の両面で、きびしい対応を迫られるということであった。そして、その流れはこんにち一段とその勢を増しつつある。

就任して驚いたことの一つに、学術センター、講義棟、厚生会館に比し、先生方の研究条件の劣悪さがあった。ある教授から「もう箱ものはよいから、研究条件の整備を」と直訴されたことを思い出す。その改善のため、歴代の事務局長、担当係職員には「つらい思い」をしてもらった。要求を少しづつでも実現していくためには、特別な努力を関係者に求めざるをえないからである。

木下前学長からは5項目の引継事項をいただいていた。
(一) 大学設置基準の大綱化対策 (二) 国際商学科の教育体制について (三) 第二キャンパスの確保と学部の数化
四 産業文化研究所について (五) 国際交流の推進について
いずれも本学の将来にかかわる重要事項である。しかもその実現の姿は、「大学氷河期」と科学技術の発展に対応できる教育体制でなければならない。引継事項を具体化するため「将来計画委員会」を発足させ、「カリキュラム」、「自己評価」、「施設整備」の3小委員会が設けられ、(一)については委員会と教授会の議を経て、1995年度入学生から施行の運びとなり現在に至っている。(二)については経営情報コースの整備は進んだが、他のコースについては前学長の構想を実現するまでには至っていない。(三)に関しては設置者サイドとの再三の協議で理解は得られつつあるものの財政計画や議会や市民各層の積極的な支援を得ての実施計画の策定までには至っていない。これからの課題である。四と(五)については先々代山田学長の「研究は地域に根ざし、教育は世界を目指す」を本学の理念に据え、21世紀に向けての本学の発展の基礎を具体的に固めることを目指した。幸い北九州大学の中谷哲郎学長、白石馨産

業社会研究所長の賛同を得て、本学の産業文化研究所との間で、両研究所のスタッフを中心とする各分野の「関門研究」が、継続的に取組まれることになった。北九州市と下関市との協力関係の一つの具体化である。また、市民大学の拡充、市民の生涯学習に応える科目等履修生の授業料の減額措置、大学図書館の土・日曜日開館などは、市立大学としての本学の存在意義をあらためて市民に問うことにもなった。

本学の国際交流を「世界を目指す教育」の一環として位置づけ、オーストラリアのグリフィス大学、クィーンズランド大学と新たに友好校の協定を結び、青島大学、東義大学(釜山)との交流の拡充を計ると共に、政府や国際教育等の財団との関係を密にして、奨学金による交換留学生制度の本学における定着化を目指してきた。国際交流に関して本学が実力以上の成果を挙げえたのは、ひとえに教職員、学生、市民の有志の犠牲的な協力のたまものである。本紙上を借りて感謝の意をあらためて表したい。

学生の皆さんに言いたいことは、『赤馬』(第15号から第20号まで)の巻頭言ですでに述べている。また体育会にたいしては求めに応じて、『維新』や各部の部報にそのつど所感や偶感を寄せている。ただ『赤馬』の第20号に書いているように、読まなければ私の述べたいことも伝わらない。在学中に読書の習慣をぜひ着けてほしい。図書館の閲覧室をのぞけば、その大学のレベルが解る。本学には立派な図書館があるのだから、十分活用して自分を高める努力をしてもらいたい。

在任中、悩みがなかったわけではない。ことを進めるにあたって、学究的であるべきか行政的であるべきか、と悩む場面が再三あった。公立大学には国立大学とも私立大学とも異なる行財政制度上の制約と対応のむずかしさがあるからである。教授会も行政サイドも市民も、市立大学の発展のために、そのむずかしさをよく理解し、協力の真を示してほしい。それが私の願いである。



平成9年度卒業式

平成10年3月25日、第33回卒業証書・学位記授与式が挙行され、経済学士249名、商学士259名が、多くの来賓、在校生に送られて、学窓を巣立った。総代は経済学科長棟優子さん、国際商学科河野美知子さん。在任最後の卒業式に臨んだ大屋学長は、「さまざまな矛盾をかかえた社会にあって身を過まらぬ道は、自分の心に問い、自己責任を自覚して行動することである」と式辞を述べた。



大屋学長退任記念祝賀会を開催

平成10年3月30日、シーモールパレスにおいて、大屋先生を送る会主催による大屋祐雪先生退任記念祝賀会が開催された。大屋先生の交友の広さを物語るように、本学教職員のみならず、各界から、総勢100名近くの参加者があった。

まず、祝賀会に先立って、「日本近代統計の祖—杉亨二のこと—」と題する大屋先生のお別れの講演があった。祝賀会では、本学学生部長の山本興治教授の送ることばに続いて、江島潔下関市長、白井健司下関市議会議長の祝辞、花束贈呈、大屋先生による謝辞のあと、下山新学長によって乾杯が行われた。アトラクションとして、本学吹奏楽部による演奏もあった。最後は、飯田要本学同窓会長による万歳三唱でしめくくられた。

入試状況

1998年度の入試は推薦、特別選抜（帰国子女、社会人、中国引揚者等子女）、留学生、一般選抜（A、C日程）に分けて行われた。志願者は全体としては昨年を下回ったが、C日程の経済学科のみは大幅に上回った。選抜実施状況、98年度入学者の出身高校（留学生を除く）は以下の通りである。

1998（平成9）年度入試状況

	学科（定員）	志願者	受験者	合格者	入学者	実質倍率
A日程	経済（50）	503	454	102	59	4.5
	国際商（50）	273	244	105	48	2.3
C日程	経済（132）	2,163	1,213	389	122	3.1
	国際商（132）	1,568	858	359	146	2.4
推薦	全国 経済（25）	67	67	25	25	2.7
	全国 国際商（25）	62	62	25	25	2.5
	地域 経済（38）	44	44	39	39	1.1
	地域 国際商（38）	40	39	38	38	1.0
特別選抜	経済（5）	3	1	1	0	—
	国際商（5）	6	6	3	2	—
留学生	経済（若干名）	10	9	5	1	—
	国際商（若干名）	37	37	23	7	—

1998年度入学者出身校

（数字は人数、数字のない高校は1人入学）

〔北海道〕函館白百合学園〔千葉〕千葉女子〔神奈川〕

桐蔭学園〔富山〕高岡西、氷見〔福井〕藤島、高志2、武生東〔岐阜〕岐阜商業（県立）、池田〔静岡〕沼津東、浜松西、浜松湖東、庵原、磐田東〔愛知〕一宮西、刈谷北、国府、岡崎西、愛知産業大学三河、大成〔三重〕伊勢〔滋賀〕彦根東、米原2、虎姫、比叡山〔京都〕八幡、福知山、東舞鶴、鳥羽〔大阪〕千里、開明、東海大学付属仰星〔兵庫〕舞子、武庫荘、明石西、三木、姫路西、姫路南、福崎、龍野、豊岡、相生2、姫路、神戸高塚、播磨南、兵庫県播磨、東洋大学附属姫路〔奈良〕生駒、富雄〔和歌山〕貴志川、日高、開智、近畿大学附属和歌山〔鳥取〕鳥取西3、倉吉東、倉吉西、由良育英、〔島根〕松江北2、松江南5、大東、飯南、平田、出雲、大社、江津、浜田3、益田、松江東5、〔岡山〕岡山朝日2、倉敷西陵、津山2、玉島（県立）、笠岡、総社、瀬戸、落合、林野2、岡山一宮、倉敷古城池、岡山城東、就実〔広島〕呉工業高専、賀茂、五日市2、安古市、尾道東2、尾道北4、府中3、大門、舟入、基町2、沼田、美鈴が丘2、崇徳、広島県新庄、広島工業大学附属広島、武田、盈進、近畿大学附属福山〔山口〕岩国3、柳井2、光2、下松2、徳山、徳山商業2、防府4、防府商業、山口3、山口中央、宇部3、宇部中央2、小野田、厚狭7、田部4、西市5、豊浦13、長府12、下関西3、下関南7、下関第一12、下関中央工業、豊北4、大津、萩、萩商業、下関商業9、響2、西京、野田学園、宇部鴻城2、宇部女子2、香川2、梅光女学院6、早鞆7〔徳島〕城2北、富岡東、富岡西、阿波、脇町3、城ノ内2〔香川〕観音寺第一2、高松第一、高松北2、香川中央2、〔愛媛〕三島2、新居浜東、新居浜西2、西条2、今治西、松山北、松山商業、東温、宇和島東2、宇和島南、愛光〔高知〕高知追手前、高知小津、高知西2、高知南、土佐女子〔福岡〕筑上中部、豊津5、京都2、門司4、大里、小倉南2、小倉、小倉西3、北九州、戸畑6、戸畑中央、八幡2、八幡中央、八幡南、東築、新宮4、福岡、福岡中央、城南3、修猷館、久留米2、三池2、八女、田川、東鷹、嘉穂2、嘉穂東3、鞍手2、北築4、春日、小倉東6、中間、光陵2、筑前、柏陵、早良、常盤2、東筑紫学園、九州国際大学付属5、筑紫女学院、築陽学園、大牟田2、久留米工業大学附属、中村学園三陽〔佐賀〕佐賀西4、佐賀北2、唐津東2、武雄5、白石、致遠館、東明館〔長崎〕長崎東2、長崎西、長崎北4、佐世保南、諫早、島原2、松浦、宇久、上五島、長崎北陽台、長崎南山〔熊本〕済々黌、第二3、熊本西3、八代4、人吉、天草、八代南、熊本学園大学付属、文徳2〔大分〕高田、国東、別府鶴見丘、大分上野丘5、大分舞鶴2、大分雄城台5、大分商業、大分鶴崎2、森、日田、大分南、別府羽室台、大分豊府3、大分、大分東明〔宮崎〕延岡、妻2、宮崎大宮、福島、都城泉ヶ丘4、宮崎北2、五ヶ瀬、鵬翔2〔鹿児島〕甲南、鹿児島中央2、加世田6、川辺、伊集院、川内2、出水2、大口、加治木、鹿屋2、大島、武岡台2、鹿児島城西、出水中央、鹿児島第一2、志学館高等部2〔沖縄〕開邦3

就 職 状 況

平成 9 年度就職状況

平成 9 年度の就職環境は前年に比べて、やや好転の兆しが見られたが、依然、厳しい環境が続いている。

そのような環境下において、本学の就職先決定状況は非常に善戦しているといえる（特に女子は健闘）。平成 10 年 3 月末現在、男子 87.6%、女子 89.8%、全体で 88.2%であった。これは、対前年実績を、男子で 1.4%、女子で 4.4%、全体で 2.2%上廻っている。なお大学院進学者は 3 名であった。

平成 10 年度の就職（採用）環境

今年度は、以下の様な特徴がみられる。すなわち、年初来の景気の悪化に伴い、企業の採用予定数の停滞あるいは縮小傾向がみられるが、求人は前倒し的に早目に開始されている。また就職協定廃止 2 年目であり、各産業・各企業が採用活動において自由度を強めている。内定時期・採用活動期間も多様であり、また採用方法も多様性を帯びてきている。例えば、詳細なエントリー・シートの提出、E-Mail の積極的活用、筆記試験の比重の増大、従来通りのリクルーター方式などである。

平成 10 年度の本学の就職活動計画

① 4 年生個人面談

例年より 1 ヶ月早く、2 月 20 日から実質 3 日間、就職委員会の教職員と学生（約 250 名）が個人面談、学生本人の就職希望を聞く。続いて、企業へ推薦する学生面接を 3 ～ 4 月にかけて実施。今年度 4 年生は、就職環境の悪化を反映して、現実的・慎重な傾向がみられる。もっと元気を出して欲しい。

② 企業開拓活動

例年より 1 ヶ月早く、2 ～ 4 月に、就職委員の教職員（8 名）が分担して、有力企業（全国、約 120 社）を訪問し、企業開拓を行なった。就職企業への対象者は随時、就職相談室へ。

③ 公務員試験・企業筆記試験対策

第 1 回公務員ガイダンスを 4 月 17 日に開催（2 ～ 4 年生対象／国税専門官対策）。講師は、広島国税局。第 2 回公務員ガイダンス（国Ⅱ、地方上級対策）は 6 月中旬に予定。講師は人事院中国事務局より。またビデオ（全 64 巻）による公務員・企業筆記試験対策講座会員を募集中（対象者全学年／3 千円）。希望者は就職相談室へ。専門講師による生講座（全 90 コマ）は 10 月より実施予定。両講座とも積極的に参加されたい。

④ インターネット

今や就職活動に必須のものとなっているインターネット接続 PC を就職相談室に 3 台設置。学生は自由に企業の情報収集、資料請求、セミナー申込み等に活用されたい。

メールアドレス (shusyoku @ shimonoseki-cu.ac.jp)

⑤ 各種証明書発行

卒業見込証明書、成績証明書は、6 月 1 日より就職相談室で発行（各人 3 部まで）。それ以上は、教務部窓口へ申請のこと。

⑥ 個別就職相談

個別就職相談日（月、火、金曜日）を設け、実施中。積極的に就職相談室に来られたい。

平成 10 年度就職委員会

本年 4 月 1 日で就職委員会のメンバーが大幅に交替した。

本年度のメンバーは以下のとおりである。

就職委員長	川 本 忠 雄 教授
就職副委員長	櫻 本 晋 一 教授
就 職 委 員	森 幸 弘 教授
就 職 委 員	下 田 守 教授
就 職 委 員	素 川 博 司 助教授
就 職 委 員	佐 藤 隆 講師
就 職 委 員	来見田 隆 英 事務局長
就 職 委 員	山 根 義 裕 学生部補導係長
就職相談室長	新 井 萬
就職相談室職員	堂 下 邦 江

教員著作目録

- 加来和典：（共著）坂田・阿山・宗像編『21 世紀に生きる共生』学文社、1997. 4
- 金尾敏寛：（単著）『価格・資金調達と分配の理論』日本経済評論社、1997. 6；（共著）西日本理論経済学会編『マクロ経済学の現代的諸相』勁草書房、1997. 7
- 金子 肇：（共著）日本上海史研究会編『上海人物誌』東方書店、1997. 5
- 坂本紘二：（共著）筑後川下流用水事業記念誌編集委員会編『かわりゆく筑後川下流域と人々ー筑後川下流用水事業記念誌ー』水資源開発公団筑後川下流用水建設所、1997. 11；（共著）日田市民セミナー「紫明庵」編『筑後川水環境マップ 第 3 号』日田市民セミナー「紫明庵」、1998. 1
- 下山房雄：（単著）「あらたな福祉社会と共同労働」（『仕事の発見』23 号）CIS 出版、1997. 9；（単著）「書評・兵藤剣『労働の戦後史 上下』」（『国労文化』457 号）国鉄労働組合、1997. 10
- 白川春子：（共著）白川豊・白川春子『これならわかる！ 朝鮮語』白水社、1998. 3
- 財部忠夫：（共著）『知識ワーカーの変革』日科技連出版社、1997. 6；（共著）『オフィス改革のためのグループウェア』日刊工業新聞社、1997. 12
- 田中裕美子：（共著）本田弘子編著『家族のかたち』法政出版、1998. 2
- 谷口 匡：（共著）明清文人研究会編『鄭板橋』芸術新聞社、1997. 6
- 西田雅弘：（共著）中山愈編『現代世界の思想的課題』弘文堂、1998. 2
- 平岡昭利：（編著）『九州一地図で読む百年』古今書院、1997. 3；（編著）『地図でみる佐世保』芸文堂、1997. 11；（共著）『地理学の諸相』大明堂、1998. 2
- 堀内隆治：（共著）中岡・竹中・熊沢監修『大阪社会労働運動史 第 7 巻』大阪社会運動協会、1997. 7；（共著）坂脇・中原編著『現代日本の社会保障』ミネルグ書房、1997. 8；（共著）町誌編集委員会『田主丸町誌 第 3 巻 ムラとムラびと(下)』田主丸町、1997. 3

青島大学国際商学院との新たな交流を ——訪問団（団長：沈副学長）来学



本年3月20日、本学の交流協定校である青島大学からの訪問団が来学した。訪問団は沈義峰副学長を団長に教授4名、国際交流課1名、通訳1名の計6名からなっていた。青島大学と本学の交流は1989年友好交流協定の締結に始まり、1995年には交換留学生協定を結んでいる。これまで、相互訪問5回、相互の教員派遣17回、相互の交換留学生派遣3回、その他本学からの語学短期研修5回と着実に交流は深まってきた。

今回の訪問は新たに副学長に就任された沈副学長を団長とし、大屋学長の退任を前に両校の友好を深める目的で行われた。大屋学長にはこれまでの友好交流への尽力に対して青島大学名誉教授号が授与された。

現在、青島大学には日本語学科が1クラス20数名で各学年に設けられており、学生並びに教員の日本への関心はますます高まっている。当日午後、学術センターで本学教員との懇談会がもたれ、これまでの語学交流をベースに今後、経済専門領域での教員交流が熱く語り合われた。とくに青島大学国際商学院との交流が当面の課題である。幸いに通訳の労をとられた徐修徳氏は、北九州大学大学院で学ばれた国際商学院の研究スタッフであり、貴重な掛橋の役割を担っていただけそうである。



第1回リーダーシップ・トレーニングの成功

前学生部長 山本 興治

学生部主催、かつ合宿という形では本学歴史上最初であるリーダーシップ・トレーニングが、2月28日から3月1日、下関市立青年の家で開催され、体育会所属の20クラブから学生45名、教職員5名が参加した。初日は、学生部長と古園井教授の講演、夜のグループ会議、2日目は、早朝、坂元講師の実技トレーニング、午前中、グループ別発表会が実施された。

参加者は、第1回にもかかわらず、このトレーニングの目的をよく理解し、積極的にコミットしてきたことは、

「さすがはリーダー」と思わせた。短い日程で抱えた諸問題を完全にクリアできたわけではないが、日頃多忙で失われがちな意見の交流を通じて、リーダーシップのあり方を個々に印象づけたようである。終了後の学生アンケートでは、全員が「参加してよかった」にマルを付けた。このトレーニングが今後も継続され、また他学生団体にも拡大されることが期待される。

韓国とオーストラリアから交換留学生

東義大学校(韓国・釜山市)、グリフィス大学(オーストラリア・ブリスベン市)、および本年度から相互交換が始まったクィーンズランド大学(オーストラリア・ブリスベン市)から次の学生が一年間の予定で本学に留学している。



◀金聖勲
(韓国・東義大学校、
経済学専攻)



▶ケイ・ウォーグ
(オーストラリア・
クィーンズランド大学、
国際商学専攻)



◀沈承旭
(韓国・東義大学校、
経営学専攻)



▶ダレン・ディヨン
(オーストラリア・
クィーンズランド大学、
商学専攻)

新任挨拶

自己紹介

上 倉 一 男



私が好きな文芸評論家の川本三郎氏が次のようなことを書いています。

「われわれが住んでいる日本では、都市はニューヨークのような有機的な都市(人間的な都市と呼んでもいい)の状態を越えて一気に無機的なアンチ・

ヒューマンの都市へと次元を変えようとしている。いってしまえばニューヨークの方がはるかに「田舎」であり、東京のほうがいまやその無機性においてははるかに「都市」なのである。」(『都市の感受性』) 学生の頃から読み続けている2人のアメリカの作家、『白鯨』を書き残したハーマン・メルヴィルと世捨て人を決め込んだJ. D. サリンジャー、彼らがニューヨーカーだということもあって、何度かマンハッタンには足を運びました。東京と一口に総括してしまうのも、どこか無理がある気もするのです。しかしごく大まかな言い方をすれば、東京はニューヨークに比べて、遥かに体臭を持たない乾いた街でしょう。下関には「ひかり」は停まりません。だから下関がnicheのような街なのだ、と今改めて言いません。日本の街は多かれ少

かれ「無機的」な方向へと進みつつあります。しかしここで暮らし、下関市立大学で教えるという生活が都会とは違う視座を与えてくれそうな予感があります。それはちょうど、友達がみんな帰ってしまった後の放課後、学校の廊下をひとりとぼとぼと歩いて初めて気づく、夕焼けの美しさや校庭の大きな木が風にざわめく音のようなものなのかもしれません。どうぞよろしく。

ご 挨拶

加 来 和 典



4月にこちらに参りました加来和典です。社会学を担当します。北九州市に住んでいます。電車とバスで通勤しています。高校卒業まで八幡西区で過ごしましたので、下関市のことはもちろん知っておりましたが、海の向こうということもあり、「遠い」と思っていました。が、実際は近かったのです。

先日、20数年ぶりに下関水族館に行きました。車椅子の高齢者の方が、50歳すぎくらいのこどもの方と一緒に来ておられました。二組ほど見かけました。車椅子やベビーカーの方には極めて利用しにくいことはさておき、このような施設が変わらずにあることの意味は大きいものだと思います。私も、小さい頃のことを思い出しました。この水族館も移転の予定とかで、到津遊園の閉園とともに、一抹の寂しさをおぼえます。

研究は過疎地の生活構造を福祉の観点から研究しています。山間地に行くことが多いです。福岡県矢部村や大分県中津江村などに出かけます。調査は出かけるまでは気が重いのですが、現地に行けばいろいろな話が聞けて楽しいです。山口でも調査をしてみたいと思っています。

市立大学の学生はおとなしいような感じがするのですが、どうなのでしょう。なるべくわかりやすい講義を心掛けていますが、むづかしいものです。子ども数の減少により今後の大学経営は大変と言われますが、むしろそれを私たちの大学の充実・発展のきっかけと考えたいと思っています。

中国語教育と日中友好

山 田 留 里 子



春の光と万葉の桜花に祝福されたような素晴らしい入学式に参加でき、心から感謝申し上げます。そしてなによりも、四十星霜にわたり、幾多の人材を育成し、良き市民の連帯を拡大してこられた、この魅力溢れる下関市立大学の一員となれたことは、私の人生で最も記念すべき栄誉である、と実感しています。

さて、私の専門分野は中国語であります。多くの方から「なぜ中国語を始められたのですか」という質問を受けます。その答えの一つには「周恩来総理夫妻の“民衆のた

めをを原点にされた、常に自分に負けない”という強い生き方に共感を覚えたから」が挙げられます。日本と中国は一筋の帯のような海に隔てられているだけの縁深き隣国。両国民友好の懸橋を結ぶお役に立てればという思いがあります。

また、私の目指す教育は、単なる知識の伝達ではなく、思考力と判断力のある独立した人格を育成することにあります。そのために学ぶ動機と目的意識を学生たちに常に具体的に持たせていきたいと思っています。中国語教育を通して、学生たちの最高のものを引き出し、学ぶ喜びを見出せるよう、熱き責任感で、惜しまずに献身していきます。

陳 秋 紅 (Chen Qiuhong)



初めてお目にかかります。4月20日に青島 (Qingdao) から参りました陳秋紅と申します。

春うららかな花開く季節、暖かな春風と満開の花は、美しい下関に光輝く色彩を増しているかのように思えます。

木が青々と生い茂る山なみや静かな通り、そして優美で趣のある庭や建物の佇む下関は私に深い印象を与えてくれました。

市大では、生活や教育面で同僚の方々に大変お世話になっております。「身は異郷にあり」ですが、ひとしお親しみと真心を感じ、誠に感謝にたえません。

市大は、先進的教育施設と優れた教育環境を備え、優秀な教師と勉強好きで向上心のある学生がたくさんいます。一年間ではありますが、市大の教師の一人として、一生懸命頑張りたいと思います。市大の発展のために微力ではありますが力を尽くし、また市大と青島 (QingDa) の友好交流、中日の友誼が長く続きますように、精一杯貢献したいと決意しております。

どうぞご指導の程宜しくお願い申し上げます。

(山田留里子訳)

マーク・フリン



はじめまして。私はオーストラリアのグリフィス大学から来ましたマーク・フリンと申します。この4月に下関市立大学に赴任いたしました。

私がはじめて日本に来たのは1985年でそれ以来何度も日本に来ています。初めて日本に住んでいたころはアジアについて研究しておりましたので、グリフィス大学アジア国際学部でアジア研究を行っておりました。また私は多くの国々の人たちと出会い話しをすることが好きなので、英語を教えることは様々な人たちと出会う良い機会であると思ひ下関に参りました。

グリフィス大学は世界中から多くの学生達が集まって来ているとても国際的雰囲気をもった大学です。市大にもま

た多くの留学生が学んでいることに驚きました。私はまた交換留学生として東京で勉強していたことがあるので、国際交流の重要性を認識しております。交換留学生としての経験から異国での生活というものはとても大変である一方、とても有意義なものであることを知っています。つらい経験も良い経験もすべて結局良い経験になります。

下関に来まして下関の人達はとても親切だと感じました。大学の雰囲気もたいへん良くみなさんから歓迎をうけました。私は多くの人たちと会うのをたのしみにしておりますので、いつでも私の研究室に来て下さい。

田 中 裕 美 子



4月より下関市立大学の一員に加えていただきました田中裕美子です。福祉経済論を担当させていただきます。出身は大阪ですが、学生時代を京都で過ごしました。

2月の半ば頃、家を探すために、初めて新下関駅の周辺を見て回りました。車で走っていると、あちらこちらに山があったのが大変印象的でした。京都市は、北と東西の三方を山に囲まれています。京都人の中には、「三方を山に囲まれてんと、落ち着かへん」と言う人もいます。私の住んでいた場所も、比叡山に近く、お盆の送り火である大文字もすぐそばの橋から見えました。ですから、山が近くにあり、緑に恵まれている下関にはとても親しみを感ずります。また、壇ノ浦を始めとして、歴史にゆかりの深い地域でもあり、これからの名跡めぐりが楽しみです。

ゴールデンウィークには、火の山や赤間神宮、海峡ゆめタワーや関門橋、唐戸市場など、普段はゆっくり見るチャンスがなかった場所に行きました。関釜フェリーの乗り場を見たときには、お隣の国との近さを実感しました。

朝、家から船の汽笛が聞こえます。この船は、どこからきたのだろうかなどと考えながら起きることができるのも、海の街ならではの楽しみです。

まだまだ、新米の下関市民ですが、大学と地域のために少しでもお役に立てますようがんばりたいと思っております。今後ともご指導くださいますようお願い申し上げます。

退 任 挨拶

30代を過ごした下関

小 川 郁 夫

1988年中国語の教師として市大赴任。当時30歳。まもなく娘が誕生。89年、市大と青島大学が友好校に。その年、初めて中国語テキスト出版。90年夏、市大の学生を引率して青島大を初めて訪問。92年、息子誕生。その年の夏、学生を引率して青島大へ2度目の訪問。93年、福井大学にて国内研修をさせていただいた。94年、学生を連れて青島大訪問。95年、青島大で2カ月間講義をさせ

ていただく。96年、学生を連れて青島大訪問。市大の学生および青島大の先生方と長江三峡下りを楽しむ。97年、青島大学から客員教授の称号をいただき（非常感謝）、授与式に出席。

そして98年3月、下関市立大学を去ることに決めました。現在40歳。30代の10年間を下関で過ごした。この間、青島大学から市立大学を訪問された先生方は長期・短期合わせて27名（たぶん）。私のできる範囲内で精一杯歓迎した。私個人の事では中国語関係の論文9本（ちょっと少ないかな）、著書11冊（自分をほめてあげたい）。まさに中国満載の30代でした。

学生諸君に一言。何かに一生懸命取り組んでいる人は輝いてみえる。この10年間中国語教育、中国との国際交流に一生懸命取り組んできた私が多少なりとも学生たちの目に輝いてみえたことがあったらこれ以上の喜びはありません。4月から福岡国際大学という新設校に移ります。新しい大学でまた一から中国語教育と国際交流に取り組みます。40代の引っ越しは2人の子供も一緒にです。

退任にあたって

佐 々 木 淳

私が、下関市立大学に赴任したのは、6年前の1992年でした。兵庫県の神戸市に生まれ、阪神間を出たことのない私にとって、下関での生活は、それまで特に意識しなかった「故郷」というものを自覚的に考える機会となりました（あの忌まわしい阪神大震災によって、その思いが強められたことは言うまでもありません）。阪神間の喧騒から離れた静かな環境の下で、大学の教員としての研究生生活がはじめられたことを幸せに思っています。専門分野の異なる個性豊かな先生方との間で深めた親交や、ゼミ・講義を通じた学生諸君との交流も、今後の人生を実りあるものにするうえで、貴重な財産になることと確信しています。6年間の市大での生活を様々な面で支えてくださった教職員の皆様方に謝意を表するとともに、今後の市大の発展を心からお祈り致します。ありがとうございました。

下関市大を去るに当たって

中 居 裕

平成9年12月いっぱい下関市大を辞め、東京水産大学に変わりました。本学に赴任したのは平成4年4月でしたので5年と9ヶ月在職したことになります。また、下関には前職の水産大学校も合わせますとほぼ10年住んだことになります。

さて、私は新任校も含めて4つの大学に勤めることとなりますが、そのうち3校が水産系の大学・学部ですので実験系でない学部は本学だけとなり、その意味で違った空間に接することができ、いろいろと勉強になりました。また、私の担当科目は水産経済論（専門は水産物流通論）でしたが、経済系学部のなかで当該科目の専任教員がいるところは全国でも珍しく、水産都市下関の公立大学故と思っています。

新任校では大学院も担当しなければなりません、今後は研究者の養成にできるだけ努力したいと思っています。大学そのものは自然科学系ですが、私の所属する資源管理学科の研究室の半分は経済系ですので水産経済・水産物流通等に興味ある人は是非大学院に挑戦して下さい。既に博士課程には市大の卒業生が一人在学しております。

地方の公立大学は今後大きな変動の時代を迎えていくものと思われませんが、下関市大の今後の発展を祈願しております。

退 任 の 挨拶

中 上 光 夫

学生時代の友人が年賀状に、下関ってどんな所ですかと書いてきました。私も何かが違っていたら、友人のようであったのかもしれないと思ったものでした。私が生まれ育った東京から山口県に移り住んだのは15年前でした。その1、2年後に前任校の用事で下関の地を踏んだのが、私が下関というマチを意識した最初の時でした。旅行好きで歴史も結構好きな私は、その時、ついでに市内の2、3の観光名所をも見て回ったものでした。その後、この地とはちょっとした縁ができたようで、翌年も翌々年もその次の年も泊まり掛けて下関を訪れることとなり、さらに11年前には下関市立大学で非常勤講師をつとめることとなり、ほとんどが秋学期だけの半期だったのですが、7年間市立大学に通いました。3年前の95年4月に、今度は専任教員として下関に移り住んできたのですが、着任当初は、こんなに短期間でこの地を去ることになるとは思ってもおらず、下関とはなにか縁があるのだと心密かに感じたものでした。

下関市立大学は民主的でリベラルな校風を持ち、それぞれに一生懸命な良き教職員の方々がいて、私は叱咤激励されているようで、こうした状況を有り難いものだと思っていました。辞める少し前に同僚の先生たちと飲みに行ったとき、私はまだこの大学の同僚たちの多くといくらか話しをしないで居なくなってしまうのだということを痛感しました。市大に名残惜しさも残ります。これまで馴染んできた下関や山口県に、これからも行く機会があるだろうと思いますが、ひとまずは、さようなら。

去るにあたり、ご挨拶申し上げます。

乗 口 眞 一 郎

下関市立大学に、満10年間奉職いたしました。皆様方には、無限にお世話になりました。心からお礼申し上げます。

私は学者としては、3流どころか4流で、なに一つ光り輝くものは、残せませんでした。恥ずかしく思います。それでも、振り返ってみますと、心の支えは学生たちに、とても慕われたことでした。私の研究室からは、いつも笑い声が聞こえ、いつも誰かが、訪問していました。『どうしたら、先生のように、学生が引っ付いて、来るんですね?』と、いぶかしそうに尋ねた同僚がいました。学生たちが慕うかどうかは、やはり教員の人柄であるように思います。人間の成長のある段階で、身についた何物かが、そ

うさせるのでしょう。

母校の北九州大学へ転任します。アメリカ文学を担当します。文学とは、超日常の世界、無定型の『靈感』の世界です。これを論文と言う名の、定型の世界に引きずり込む行為は、詩人や作家たちへの、冒涇行為なのかもしれません。文学研究の醍醐味は、表層から深層を探り当てることにあります。本を読むことは一人でも可能です。論文を書くことも個人の仕事です。しかし、孤独に徹することが、研究の深化に直結する、とは限りません。北九州でも、再び、市民グループと読書会を、持ちたいと考えています。

最後に、下関市立大学に、新学部と大学院が、一日も早く設置されますよう、希望いたします。

李 凌 韻

去年、桜が満開の頃、この美しい街・下関にまいりましたが、今年、また春が到来し、帰国の途につきました。1年間、市立大学教職員の皆様による至れり尽くせりのご配慮とお力添えのおかげをもちまして、順調に教育・研究の任務を終えることができ、ここに、学長はじめ諸先生方、職員の皆様に心から感謝申し上げる次第です。

市立大学の先生方の学問研究の対するひたむきな精神、職員の方々の仕事に対する真剣かつ責任ある姿勢には、強く印象づけられました。学生たちの先生を尊敬する礼儀正しい品性と、刻苦勉勵の学習態度は、これからも美しい思い出として永く記憶に残ると思います。1年という短い時間ではありましたが、先生方、学生たちとは深い友情を結ぶことができました。今後はこの関係をより一層強め、相互に学び、相互に励むことで、青島大学と市立大学の友情の花をさらに絢爛と光り輝かせたいと願っています。

そしてまたいつか皆様とお目にかかれるのを楽しみにしております。

教職員異動一覧

新任教職員 (教員)

氏 名	担当科目	前 任	着任年月日
下 山 房 雄(学長)	労働経済論	九州大学	10. 4. 1
上 倉 一 男(助教授)	英語	安田女子大学	10. 4. 1
加 来 和 典(助教授)	社会	宮崎大学	10. 4. 1
田 中 裕美子(講師)	福祉経済論	新任	10. 4. 1
グレッゴリー・チャイキン(講師)	国際関係論／政治	本学常勤嘱託	10. 4. 1
山 田 留里子(講師)	中国語	新任	10. 4. 1
陳 秋 紅(常勤嘱託)	中国語	青島大学	10. 4. 20
マーク・フリン(常勤嘱託)	英語	新任	10. 4. 18

(職員)

来見田 隆 英(事務局長)	総務部	10. 4. 1
田 上 忠(主幹)	教育委員会学校教育課	10. 4. 1
本 間 俊 男(主幹)	総務部職員課	10. 4. 1
松 浦 登美子(係長)	建設部建築課	10. 4. 1
和 田 守 正(主事)	財政部市民税課	10. 4. 1
瀧 保 明(主事)	総務部	10. 4. 17
岡 崎 繁 史(主事)	総務部	10. 4. 17
岩 本 隆 明(主事)	総務部	10. 4. 17
宗 岡 淳 子(嘱託)	新任	10. 4. 1

昇任教職員

(教員)

氏 名	職 名	昇任年月日
下 田 守	教授	10. 4. 1
タッド・ラトキン	助教授	9. 10. 1

(職員)

氏 名	職 名	昇任年月日
関 岡 健	主査	10. 4. 1
重 本 三 朗	主任	10. 4. 1

(教員)

氏 名	担当科目	異 動 先	異動年月日
大 屋 祐 雪(学長)	日本経済論	退任	10. 3. 31
中 居 裕(教授)	水産経済論	東京水産大学	9. 12. 31
中 上 光 夫(教授)	福祉経済論	東洋大学	10. 3. 31
桑 口 眞一郎(教授)	英語	北九州大学	10. 3. 31
小 川 郁 夫(助教授)	中国語	福岡国際大学	10. 3. 31
佐々木 淳(助教授)	商業史	龍谷大学	10. 3. 31
山 本 努(助教授)	社会学	広島県立大学	9. 9. 30
李 凌 韻(常勤嘱託)	中国語	青島大学	10. 3. 31
張 虹(研究員)		青島大学	9. 9. 30

(職員)

阿 部 邦 郎(主幹)	下水道部業務課	10. 4. 1
岡 崎 道 夫(局次長補佐)	川中支所	10. 4. 1
村 上 治 城(係長)	産業経済部商工振興課	10. 4. 1
田 村 中(主任)	保健所総務課	10. 4. 1
佐 古 正 登(主任)	水道局営業課	10. 4. 1
崎 野 寿 之(主事)	生活環境部生活安全課	10. 4. 1

定 年 退 職 職 員

氏 名	退職年月日
大 西 教(事務局長)	10. 3. 31
谷 鑑(局次長補佐)	10. 3. 31

図書館からのお知らせ

——土曜・日曜も開館しています。

☆図書館は、土曜・日曜も開館しています。

平成8年度、平成9年度の利用状況は次のとおりです。

	土 曜	日 曜
平成8年度	89人	58人
平成9年度	94人	75人

(数字は一日平均利用者数)

利用者也徐々に増えつつありますが、もっとご利用下さい。

<開館時間>

平 日	9:00~17:30
(定期試験期間)	9:00~18:30
(休業期間)	9:00~17:00
土曜・日曜	9:30~17:00

☆図書館では下記の利用サービスをおこなっています。

- ・図書館資料を閲覧できます。(閲覧席184席)
- ・図書館資料目録検索用の端末機を利用できます。(端末機6台)
- ・CD-ROM 検索用のパソコンを利用できます。(パソコ

ン3台)

- ・AVブースを利用できます。(ビデオ、CD、カセットを利用できるブース10席)
- ・グループ学習室を利用できます。(グループ学習3室)
- ・新聞を閲覧できます。(ブラウジングルーム)
- ・図書館資料のコピーができます。(コピー機1台:1枚10円)
- ・図書館資料を借りることができます。
(学生:図書4冊2週間、雑誌1冊3日間)
(市民:図書2冊2週間)
- ・図書購入のリクエストができます。
- ・他館の図書借用及び文献複写の申込ができます。(郵送料、コピー料は自己負担)
- ・他館を利用するとき必要な紹介状の作成申込ができます。
- ・その他、何でもカウンターの係員にご相談下さい。

同窓会だより

下関市立大学同窓会は、下関市立商業短期大学と下関市立大学の卒業生総数10,418名で構成されており、下関市に本部を、全国各地に16支部を置いています。今後も支部のある都道府県は増えてまいります。在校生の皆様も、卒業と同時に同窓会の会員になります。現在の支部一覧表を下記に掲載しますので活用して下さい。

本 部 会 長 飯田 要(市大1期卒)

0832-52-0288(下関市立大学事務局)

東 京 支 部 (東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県)

支部長 中西正文(市大1期卒)

03-3437-2324(佐藤)

愛知県支部 支部長 梅谷道明(市大3期卒)052-354-2149

三重県支部 支部長 藤原久幸(市大4期卒)

0593-82-2112(センコー(株))

関 西 支 部 (大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・奈良県)

支部長 井上秀行(市大1期卒)

06-441-1371(ダイビル(株)大場)

和歌山県支部 支部長 坂本善信(市大2期卒)0736-37-2324

岡山県支部 支部長 前川 淳(市大1期卒)0865-26-0078

広島県支部 支部長 清水賢治(市大1期卒)082-812-2387

島根県支部 支部長 杉原信之(市大2期卒)0852-24-6376

山口県支部 支部長 栢谷 學(市大1期卒)

0836-62-1010(麻生)

愛媛県支部 支部長 大西淳介(市大4期卒)0899-84-2742

福岡県支部 支部長 築地正明(市大2期卒)092-512-4566

大分県支部 支部長 清原 宏(市大1期卒)0975-42-4810

熊本県支部 支部長 中村 裕(市大2期卒)096-353-2537

長崎県支部 支部長 鎌田 博(市大2期卒)0957-26-0704

宮崎県支部 支部長 永野良明(市大1期卒)0985-47-6517

鹿児島県支部 支部長 西元宏海(市大1期卒)0992-48-1976

10 年度予算——学友会館(仮称)建設着工

大学の10年度予算は13億4,864万4千円で、前年に比べて9,450万9千円(7.5%)の増額となりました。増額の主な理由は、念願であった学友会館(仮称)の建設事業費等が計上されたためです。同会館は現武道館の場所に10、11年度の継続事業として、今年度着工します。

そのほか、学術研究情報ネットワークを活用した情報の交換、発進など情報化社会に対応した教育研究環境の整備や老朽化したLIS機器の更新等、大学のソフト・ハード両面にわたり充実をはかっていきます。業務別内訳は次表のとおりです。

平成9・10年度事業別予算

(単位:千円)

区 分	大 学 管 理 業 務									小 計
	一般管理 業 務	教員研究 業 務	教務業務	厚生補導 業 務	センター 試験業務	学外入試 試験業務	図 書 館 業 務	ネットワー クインター ネット業務	産業文化 研 究 所	
平成9年	1,044,670	32,187	68,675	9,327	5,154	7,898	68,633	9,886	1,654	1,248,084
平成10年	1,041,123	33,955	67,715	10,610	6,612	7,197	67,039	10,843	1,599	1,246,693

区 分	市民大学 講座業務	関門地域 研究業務	大学整備 充実業務	合 計
平成9年	951	3,000	2,100	1,254,135
平成10年	905	3,000	98,046	1,348,644

行 事 記 録 (1998年2月～5月)

2月

- 2日(月) 秋学期(後期)試験開始 2/19まで
25日(木) A日程入試実施

3月

- 7日(土) A日程入試合格発表
8日(日) C日程入試実施
21日(土) C日程入試合格発表
24日(火) A・C日程入試合格者入学手続開始 3/27まで
25日(水) 卒業式

4月

- 1日(木) 春期休業開始 4/7まで
8日(木) 入学式
9日(木) 春学期(前期)授業開始
1・2年生オリエンテーション
10日(金) 3・4年生オリエンテーション
13日(月) 受講相談開始 4/17まで・4年生健康診断
14日(火) 1年生健康診断
15日(水) 2・3年生健康診断
16日(木) 健康診断予備日(全学年)
21日(火) 履修届締切

5月

- 6日(木) 受講確認 5/12まで
16日(土) 教育実習指導 3年
20日(木) 奨学生出願審査(全学年)

平成10年度 年間行事予定

(1998年6月～1999年3月)

6月

- 1日(月) 開学記念日
24日(木) 入試説明会

7月

- 7日(火) 春学期(前期)試験時間割発表
16日(木) 夏季休業開始 8/31まで
17日(金) 夏季集中講義開始 7/24日まで

8月

- 18日(火) キャンパス見学会

31日(月) 夏季休業終了

9月

- 1日(火) 春学期(前期)補講 9/3まで
4日(金) 春学期(前期)試験開始 9/22まで
下旬 第1回就職ガイダンス

10月

- 5日(月) 秋季集中講義開始 10/7まで
9日(金) 秋学期(後期)授業開始
12日(月) 受講確認 10/16まで
31日(土) 大学祭前夜祭

11月

- 1日(日) 大学祭 11/3まで
23日(月) 推薦入学・特別選抜(帰国子女・社会人)入試
30日(月) 推薦入学・特別選抜(帰国子女・社会人)合格発表
下旬 第2回就職ガイダンス

12月

- 25日(金) 冬季休業開始 1/7まで・冬季集中講義開始 12/28まで
28日(月) 公務納め

1月

- 4日(月) 公務はじめ
16日(土) 大学入試センター試験 1/17まで
22日(金) 秋学期(後期)試験時間割発表
25日(月) 特別選抜(中国引揚・留学生)入試
29日(金) 特別選抜(中国引揚・留学生)合格発表

2月

- 1日(月) 秋学期(後期)補講 2/2まで
3日(木) 秋学期(後期)試験開始 2/19まで
25日(木) 前期日程入試実施
下旬 第3回就職ガイダンス

3月

- 7日(日) 前期日程入試合格発表
8日(月) 公立大学中期日程(旧C日程)入試
9日(火) 前期日程入学手続開始 3/15まで
22日(月) 公立大学中期日程(旧C日程)入試合格発表
23日(火) 公立大学中期日程(旧C日程)入学手続開始 3/27まで
25日(木) 卒業式